

理科における平成29年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・昨年度からの授業改善の取り組みによって6年生は、目標値・区平均共に上回る結果となったが、4、5年生は、正答率が目標値・区平均を下回る結果となった。今後も、子どもたちが意欲的に学習できる環境づくりの構築と問題演習に取り組む時間の確保に取り組んでいく。
- ・教員自身が自然事象に興味をもち、理科（科学）に対する理解を深めるための研修を行っていく必要がある。

理科における調査結果の分析

	自然事象への関心 意欲 態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
観点別結果の分析	5年生は目標値・区平均を下回った。4、6年生は目標値・区平均を上回った。さらに興味や関心を引くような授業の流れや導入の方法を工夫する。	5年生は目標値・区平均を下回った。4、6年生は目標値・区平均を上回った。観察や実験では、その結果をまとめ、互いに考えを伝えることを重点とする。	4、5年生は目標値・区平均を下回った。6年生は目標値・区平均を上回った。観察や実験の基礎的な方法を、単元の中に位置付けて授業を進める。	4、6年生は目標値・区平均を上回った。5年生は目標値・区平均を下回った。学習したことを定着させるために、ベシックドリル等プリントを用いて振り返らせる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1. 自然事象への関心 意欲を高める

→導入や授業の流れを工夫する。実際の生活や各教科と、理科で既習した内容が結びつけられるようにする。

2. 科学的な思考・表現力を高める

→実験や観察は、予想やめあてをもってから行うようにする。その実験・観察の結果から分かったことから何がいえるか、文章でまとめたり、発表したりすることで、お互いの考えを共有できるようにする。

3. 観察実験の技能の向上

→長い時間をかけて継続的な観察などできるように、計画的な時間設定を行う。

4. 知識・理解の定着

→観察や実験の結果を振り返る時間を確保し、基礎的な知識の定着を図る。

理科の授業改善策

1. 自然事象への関心 意欲を高めるために

→おもしろ理科教室などとも連携を図り、子どもたちにとって、身近な事柄を授業の中に組み入れたり、自然へ自分から働きかけができる環境づくりをしたりする。

2. 科学的な思考・表現力を高めるために

→課題を追究する時間を授業中に必ず設ける。

単元の終了時には、分かったことや一般化したことを文章でまとめたり、発表したりする活動を設定する。

→教員自身が自然事象に興味をもち、理科（科学）に対する理解を深めるための研修を行う。

3. 観察実験の技術の向上を達成するために

→視聴覚資料やICTを活用し、必要な実験を行う。その際、実験の用具名や用途を理解させ、自在に扱えるようにする。

自然観察などは、実物をなるべく見せるようにし、できない場合は、視聴覚資料を見せるなどの工夫をする。

4. 知識・理解の定着を図るために

→知識が定着するように、ノートやワークシートを活用する。書き方やまとめ方にも気を配り、学習したことが単元終了時に見えるようにする。

必ず覚えなければならない科学原理や用語については、その定着を図るために小テストを行い、理科ステップ学習プリントを使用して振り返らせるようにする。